

「西阿木名小・中学校の西阿木名棒踊り・ 阿木名風土記伝承活動の取組」

1 学校名

天城町立西阿木名小中学校

2 学年・人数

小学校1年生～中学校3年生（児童13名・生徒7名，計20名）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

総合的な学習の時間（年6回）（本校体育館）

（2）発表の日時・場所

平成30年9月16日（日）西阿木名小中学校運動会（本校グラウンド）

平成30年10月30日（火）校内学習発表会（本校体育館）

平成30年11月17日（土）アカギの木コンサート（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

ア 西阿木名棒踊り（にしあぎなぼうおどり）

イ 阿木名風土記（あぎなくどうき）

（2）由来

ア 西阿木名棒踊り

明治中期の天城町北部にある松原銅山が操業していた頃，そこで働く鉱夫から伝わり，西阿木名集落に伝承されている。西阿木名集落の棒踊りは，もともと軽快でテンポの良い上州小唄につけて踊られていたが，数年前からは地域の特徴を唄いこんだ歌詞に創作されて唄い踊られている。

イ 阿木名風土記

阿木名風土記は，「意見口説」の節に西阿木名出身者によって西阿木名地域の風土が唄われているもので，それに創作された踊りが加えられ，集落民が一緒に踊って祝う芸能として今日まで継承されている。日の丸扇子を持って踊ることから豊年祭や敬老会，歳祝などの祝賀行事では必ず披露されている。

（3）構成等

ア 西阿木名棒踊り

向かいあった2人が1組となり，それを2組並列した正方形の隊形を組む。そして，向かい合った二人が棒を振りかざしたり，棒で受けたりするなど，180cmほどの棒を打ち合いながら棒術の攻防を唄に合わせて行う。そして，一連の棒の打ち合いが終わると，並んだもう一組と場所が入れ替えるが，場所を入れ替える際に，棒を打ち合わせて入れ替わる。この一連の動作を唄が終わるまで，繰り返し行う。

イ 阿木名風土記

両手に日の丸扇子を持った踊り手が，阿木名風土記の唄に合わせて踊る輪踊りである。踊り手は，円形に並び，踊りながら円周を進む。また

は、舞台踊り風に横並びに前を向いて踊る。唄い手・三味線の弾き手・太鼓（チデン）の打ち手で構成される。

5 保存会や地域との連携の具体

西阿木名民謡保存会の方々に直接、学校に来ていただき、西阿木名棒踊りや阿木名風土記の唄を唄ってもらい、それに合わせて児童生徒が踊りの練習を行う。学校で唄も踊りも練習した児童生徒は、集落行事にも積極的に参加し、その成果を披露しており、伝統芸能を介した民謡保存会、地域、学校の交流の循環が形成されている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

西阿木名棒踊りや阿木名風土記などの唄は方言で唄われており、児童生徒にとって容易に理解できるものではない。そのため、地域住民である教員や、民謡保存会の方々に、これらの伝統芸能の歌詞の意味や、踊られた時代背景などを、しっかりと教示していただくようにしている。

7 取組の様子



【練習の様子】



【学校行事や地域行事で披露する様子】



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

〔児童生徒から〕

- いろいろな唄や踊りが覚えられて、いろいろな場所で発表できるからうれしい。大人になっても伝統芸能を引き継ぎたい。

〔保護者から〕

- 学校・地域を愛する心を育てることにつながると思う。

〔教職員から〕

- 発表する機会が多く、地域の方からの声が自信につながっている。
- 郷土の先人の教えを学ぶことを通して、郷土を愛する心が育っている。
- 各種地域行事で、卒業生も一緒に披露できる姿がとても頼もしい。

〔民謡保存会・地域の方々から〕

- 島唄を通して島口が理解できるようになる姿がうれしい。
- 一緒に活動していると、児童生徒が我が子のように思えてかわいい。
- 学校のためにいつでも協力したい。